

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 32 回 外的事象 PRA 分科会議事録

日 時： 2023 年 10 月 24 日(火) 10:00~12:00

場 所： Microsoft Teams 会議

配布資料

RK6SC 32-1	第 31 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)
RK6SC 32-2-1	人事について
RK6SC 32-2-2	外的事象 PRA 委員名簿 2023/10/24 版
RK6SC 32-3-1	外部ハザード選定標準【中間・審議】(中間報告)案
RK6SC 32-3-2	外部ハザード選定標準 リスク専門部会コメント対応表
RK6SC 32-3-3	外部ハザード選定標準 新旧比較表
RK6SC 32-3-4	外部ハザード選定標準 改定案
RK6SC 32-4-1	地震 PRA 実施基準:202X 改定
RK6SC 32-4-1	地震 PRA 実施基準 附属書 Z 3.2
RK6SC 32-4-2	地震 PRA 実施基準 附属書 AN
RK6SC 32-5-1	技術レポート原案に関する調整のお願い(地震 PRA)
RK6SC 32-5-2-1	分科会・作業会コメント対応表 ハザード
RK6SC 32-5-2-1	分科会・作業会コメント対応表 フラジリティ
RK6SC 32-5-2-1	分科会・作業会コメント対応表 事故シーケンス
RK6SC 32-5-3-1	地震 PRA 技術レポート原案(まえがき、目次、本文)
RK6SC 32-5-3-1	地震 PRA 技術レポート原案(箇条6)
RK6SC 32-5-3-1	地震 PRA 技術レポート原案(箇条7)
RK6SC 32-5-3-1	地震 PRA 技術レポート原案(箇条8)
RK6SC 32-5-3-1	地震 PRA 技術レポート原案(箇条9)
RK6SC 32-5-4	技術レポート原案 リスク専門部会への中間報告について

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 外部ハザードのリスク評価方法選定標準 改定
5. 原子力発電所に対する地震を起因とした確率論的リスク評価に関する実施基準:202X” 改定
6. 2023 年度 標準委員会 倫理教育
7. その他、次回日程

出席委員 (15 名)： 糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、内山委員(大成建設)、国政委員(関電)、栗田委員(東電設計)、村松委員(中部電)、佐藤委員(東芝 ESS)、砂川委員(北海道電)、園山委員(テプシス)、田中委員(MHI)、廣川委員(日立 GE)、泥谷委員(NEL)、高橋(美原委員代理)(鹿島)、西田委員(JAEA)、山野委員(JAEA)、

欠席委員 (3 名)： 喜多委員(東電 HD)、中島委員(電中研)、吉田委員(大林組)

出席常時参加者 (2 名)： 根岸(原電エンジニアリング)、橋本(電中研)

欠席常時参加者 (2 名)： 安達(テプシス)、倉本(NEL)

参加者(2名): 錦見(東北電力)(地震 PRA 作業会)、藤岡(日立 GE)

(1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 18 名中 15 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

(2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容が説明され、承認された。

(3) 人事について

特に無し。

(4) 外的ハザード評価方法選定標準 改定案コメント対応、手引き改定について

泥谷委員より、外的ハザード評価方法選定標準の改定案のリスク専門部会への中間報告に向けた報告資料、コメント対応及び標準改定案について説明が行われた。

今回の修正をもって、中間報告案としてリスク専門部会に上げていくことが了承された。

以下の議論があった。

・基準 6 は、ハザードの頻度およびまたは規模になっているが、元々はプラントへの影響のことを言っていたのではないか。ハザードの規模とすると意味合いが違ってくのではないか。
→ 設備に対するものとして基準 5 があり、ハザードが到達した時の影響を考えたもの。基準 6 は基準 5 と差別化しており、ハザードの頻度や影響が含まれる場合は大きい方のハザードで評価すれば良いとするもの。

・雪崩はほかのハザードに包絡されるとして、あまり評価されないことが多いと思うが、例えばもんじゅでは、土砂崩れのほうが影響が大きいので雪崩を包絡する、というのはどう読めばよいか

→ プラントへの影響という観点なのでその場合は基準 5 で読むこととなる。基準 6 は波浪や高波は規模の大きい津波に含まれるというような扱いを指す。

・基準 5 は「プラントに影響するハザード」など範囲を若干限定している表現となっている。これを明確にするには「プラントの設計基準と比較して設備等への影響が同等、またそれ以下」など設計基準ということを入れてはどうか。

議論の結果、基準 4 は、「プラント設計で考慮した（設計基準ハザード）」表現を入れる、

基準5は「～仮定してもその影響及び頻度が、」という表現に修正し文章を適正化することとなった。コメントを頂いた各専門部会委員の方にはメールで事前に目を通して頂き、更にコメントがある場合は各分科会委員にはメールで変更内容を送って、次回のリスク専門部会（11/13）に臨んで行くこととした。

(5) 地震 PRA 標準改定 本報告対応による最終報告について

地震 PRA 作業会根岸幹事、錦見委員、高橋委員より、コメント対応について報告された。一方で、附属書 Z の 3.2、AN の 2 つの修正が必要となったが、これが表現の修正として公衆審査のコメントへの対応修正と同じタイミングで標準委員会に報告することで良いかの審議をすることとなった。

変更が大きくなる場合もありうるため、今後事故シーケンスチームの対応が終わり次第にメールなどで審議することなどが了承された。最終版の作成が 11/1、11/3 までにコメントを送りそれらを FIX することで、11/13 のリスク専門部会に分科会のコメント対応済みとして中間報告をする。

- ・伊方の SSHAC などの取り込みなどの議論は作業会でされているか。
→そのものを取り込むのは一部附属書に取り込んで活用する事となっている。また標準委員会で地震の連動についてとりこむという意見があったのでこれらが検討されている。
- ・発行、最終報告はいつになるか。
→今回中間報告なので、年度明けぐらいを予定している。転載許諾も外部コンサルに出して随時進めている。

(6) 倫理教育

- ・各委員が自習で実施し、各意見を幹事に集約することとなった。

(7) その他、次回日程

- ・次回は 2024/1/31 13:30～ Teams 会議で実施予定。分科会終了後にすぐ会議設定をする